観て楽しい、参加して楽しい 河川敷を疾走する自転車競技

「第２回小田川シクロクロスin内子」（同実行委員会主催）は12月21日、小田川河川敷で開かれました。

シクロクロスはオフロードで行う自転車競技で、一定時間内にコースを何周できるかを競います。コースは内子町役場本庁前のミニ小田川などを利用してつくられた１周２キロで、ミニ小田川の中州や河原の階段などがあり、選手が自転車を担いで走る場面も見られます。競技は年齢や性別、熟達度別などの７部門で行われ、延べ170人が参加しました。

時折降る雨でコースはさらに難しくなりましたが、選手たちは泥だらけになりながら懸命にペダルをこいでいました。尾崎浩二実行委員長は「コースはプロ選手のアドバイスを聞きながら設営した。難しいコースだが、昨年よりも参加者が増え盛況だった。来年も楽しめるコースをつくるので、多くの選手に参加してほしい。町民の皆さんもぜひ選手や観客として、一緒に大会を盛り上げましょう」と呼び掛けました。

1_女性出場者が一斉にスタート　2_入賞者には地元の特産品などが贈られた　3_泥だらけの姿が激戦を物語る　4_声援を受けて笑顔を見せる選手

環境ＮＰＯサン・ラブが 水・土壌環境保全活動功労者表彰を受賞

水質浄化活動などに尽力している特定非営利活動法人ＮＰＯサン・ラブ（入江英昭理事長）が環境省の「水・土壌環境保全活動功労者表彰を受け、12月26日に愛媛県八幡浜支局で伝達式が行われました。愛媛県内での受賞は平成21年以来、５年ぶりとなります。

入江理事長は「受賞を励みに、町民の皆さんと豊かな自然を守る取り組みを続けたい」と話しました。

功労者表彰を受ける入江理事長（右）

春の七草、食べたよ、覚えたよ 「春の七草探し」

大人と子どもの交流や食文化の継承を目的に「春の七草探し」（内子児童館、内子自治センター主催）が１月10日、内子児童館で行われました。地域の子どもたちや寿楽会の会員など約60人が参加。子どもたちが七草の名前や形を覚えた後、沖田の田んぼなどで七草を探しました。袋いっぱいに七草を採った参加者たちは児童館に戻り、できたての七草がゆをおいしそうに食べていました。

採ってきた七草を広げる子どもたち

どんど焼きの火で焼いた餅を食べ、無病息災を願う

歴史的な町並みでも続く伝統行事 町内各地で「どんど焼き」

正月飾りなどを持ち寄って焼き、新年の健康を祈る「どんど焼き」が、町内の各地で行われました。

八日市護国地区町並保存会主催のどんど焼きは１月12日、保存地区内の清正ひろばで行われました。丸山昇会長は「地域の人が集まる機会を増やしたいと、10年くらい前から復活させた。地域のつながりを深めて、元気のある保存活動を続けたい」と話しました。

著書を手にして説明する竹田さん

古事記を読めば日本が分かる 「気軽に文化講座in内子」に竹田恒泰さん

テレビなどでおなじみの竹田恒泰さんを講師に迎えた「気軽に文化講座in内子～古事記をたのしく学ぼう～」（内子町教育委員会他主催）は１月13日、内子座で開かれました。竹田さんは古事記の概要や、読むときのコツを笑いを交えながら解説。自身が６年かけて翻訳した古事記の一文から、「愛媛県」の県名が古事記に登場する神に由来していることなどを紹介しました。

作品を投句箱に入れる参加者の皆さん

新春の喜びを五・七・五に乗せて 「第38回内子町新春俳句大会」

内子町文化協会（稲月功会長）は１月10日、内子町共生館で恒例の新春俳句大会を開き、町内外から69人が参加しました。

参加者は季語を慎重に選びながら、17文字で心情や情景を表せるように言葉を吟味していました。138句の中から最優秀賞の内子町長賞を受賞したのは、山岡民子さん＝岡第２＝の「遠的へ威儀を正せり弓始」でした。

取材を受ける３人。（左から）渡邉さん、鎌田さん、稲田さん

目標は全国制覇！ 女子サッカー全国大会出場者を激励

大洲市のサッカーチームの菅田ＳＳＳパンサーズが、四国代表として「第4回びわ湖なでしこサッカー大会」に出場することが決まり、１月19日に内子町役場で同チームに所属する渡邉七海さん（五十崎小6年）、鎌田彩菜さん（同6年）、稲田怜歩さん（内子小5年）の激励式を行いました。３人は「全国大会で練習の成果を発揮したい。優勝を目指して頑張ります」と抱負を述べました。